

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0176700391		
法人名	社会福祉法人 稚内木馬館		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地	北海道稚内市はまなす2丁目9-25		
自己評価作成日	平成25年8月12日	評価結果市町村受理日	平成25年9月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・穏やかな環境の中で、安心とやすらぎのある生活ができるよう支援します。
 ・一人一人の能力を引き出し、個々の個性を尊重し、その人らしい日常を送っていただけるよう努力しています。
 ・同一敷地内の障害者施設等との連携による一体運営に取り組んでいます。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0176700391-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成25年9月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<食事を楽しむことのできる支援>
 一人ひとりの好みや力を活かしながら、芋団子やかぼちゃ団子、とうもろこしの皮むきや山菜の調理など生活リハビリや役割りごとを決めながら職員と一緒に作りをしている。また、鍋料理やジンギスカン、にぎり鮎など食事が楽しめるものになるように工夫しながら支援に努めている。
<入浴を楽しむことのできる支援>
 入浴に際しての職員の身体への負担軽減や利用者の身体機能の低下に対応できるように、併設している障がい者施設の利用者と併用して利用できるリフトを昨年設置し、浴槽に安心して入れるようにしている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)				項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念とは別に、事業所の理念があり、スタッフ会議の際に理念を唱和し共有することで、実践につながるよう努力している。	法人の理念、事業所独自の理念をつくりあげ、スタッフ会議でその理念を唱和し、その実践につなげている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、お祭りや廃品回収に参加している。また、稚内美容協会の訪問理美容を利用する等、日常的に交流している。	町内会の廃品回収参加や地元のお祭り参加、美容協会の訪問理美容の利用や実習生の受け入れで地域とつながりながら暮らし続けられるように地域の人々との交流に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会福祉部等の見学の際、認知症の理解を促している。また、法人広報紙を通じて、地域にむけて紹介し認知症の理解への努力をしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進委員の方に、行事等に参加していただき評価をいただいたり、推進会議の際に取り組み状況においての話し合いをし、サービス向上に活かせるよう努力している。	運営推進会議では、日常生活の様子や利用状況、行事予定など報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議に出席した際、市担当者とサービスの取り組みへの実情を話しあっている。また、日頃から報告・相談をし協力していただいている。	市担当者や包括支援センター職員とは、地域ケア会議参加等を通じて、実情を話し合い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に、身体拘束廃止委員会を設置しており、内部研修等を行い理解をふかめている。玄関の施錠を含め、身体拘束をしないケアを積極的に実践している。	身体拘束廃止委員会を設置して、内部研修会を開催し、全ての職員が指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会の中で、「高齢者虐待防止法」についての研修も行っており、職員のスキルアップを図りながら虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している利用者があり、個々の必要性や理解を深めながら支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約更新時に契約書・重要事項説明書の内容を説明し同意を得ている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所広報紙「ひだまりの和」を通じ、家族等が意見や要望を言いやすい機会を設けている。 面会時に、家族と話し合える機会を作り、疑問や不安があればその都度解決できるよう支援している。	苦情解決委員会で家族や来訪者等が言い表せない事例の研修を実践している。また、管理者や職員等に苦情や意見等を言い表せるように意見箱の設置や市町村等の相談窓口を掲示している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個人面談を行い、職員との風通しをよくするよう努めており、スタッフ会議においても、意見や提案が言いやすいような環境作りをしている。	定期的な個人面談の実施やスタッフ会議で職員の提案や意見を聞く機会を設け、運営に反映できるよう努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議・管理者会議において、職員の努力や実績の報告を受けながら、パート職員から正職員への採用等、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修を行い、人材育成に取り組んでいる。 個人資格取得の為に費用を、職員互助会を通じて一部負担している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的な交流はないが、市町村で開催する研修会や地域ケア会議等への参加で、同業者との意見交換や交流ができる機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係機関・本人・家族等からの情報収集を行いながら、安心の確保が出来るよう、初期の信頼関係構築に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用開始前から、家族の不安や要望を聞き入れ、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際、本人や家族と十分話し合い、「必要」と思われるサービスは、積極的に組み入れている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑の草取り・洗濯物たたみ・掃除機かけ・雑巾がけ・茶碗拭き等、本人が出来る事を職員と一緒に行っていただきながら、共に支え合う関係を築いている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で、家族に状況を報告したり、行事等へ参加していただいたり、家族との外出や一時帰宅を推進しながら、共に利用者を支えていく関係を築いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から利用していた床屋・美容室へ入居後も通えるよう支援している。友人・知人・親戚等の面会や電話も多く、家族の協力もいただきながら支援している。	地元のお祭り、敬老会への参加やドライブ、外食に出かけるなど馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の介護度、性格、能力等を把握し、相性を考慮しながら、共同作業や共通の趣味を行っていただいたり、外出したりしてお互いに支え合えるような支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了の殆どが、ご逝去によるものだが、問い合わせや相談事にはその都度応じており、必要ならばフォローも行っている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族と職員が相談しながら、意向に添えるよう努めている。困難な場合は、日常の言動等から本人の意向を把握できるよう努力している。	アセスメントを通じて、一人ひとりの暮らし方の希望や意向の把握に努め、職員間で情報の共有が行われ、本人本位に検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人・家族・関係機関等から情報を収集し把握につとめている。入居後も、本人との会話の中から、生活歴や嗜好を聞き馴染みの暮らし方が出来るよう配慮している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り・介護支援経過記録・スタッフ会議等を利用し、現状の把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議にて、モニタリング・再アセスメントを行いながら、計画作成担当と共に家族や本人の意見やアイデアを反映されるような介護計画を作成している。通常半年毎に見直しを行っているが、状況の変化によってはその都度見直すようにしている。	本人・家族の意見や要望、担当者会議やモニタリングを通じて職員の意見を反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、状態変化時には都度、介護計画を見直している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に添った支援が出来るよう、個別記録と連動させている。日々、職員間での情報共有が出来るよう申し送り表等も活用し実践や計画見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の精神障害者施設との連携・協力を計り、サービスの多様化、行事の充実等に取り組んでいる。また、面会・外出・外泊等は、本人や家族の意向に添い柔軟なサービスを行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同一法人の他事業所との交流や温室・畑での野菜作り、地域ボランティアとの関わり等、フォーマルとインフォーマルを組み合わせながら支援している		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医は、その後も継続受診している。症状の変化によっては、家族の意向を確認したうえで受診している。	本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。また、受診への支援や往診等の対応、在籍看護師との連携で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の正看護師が勤務しており、介護職員からの情報を基に、健康状態に応じて受診し、結果報告もその都度行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師からの説明がある際は、家族に同行していただく体勢をとっている。また、医療機関との情報交換を行い、退院後も継続的な支援が行えるよう努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族の思いを確認し方向性を話し合い最善の支援が行えるよう努めている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、協力医療機関と連携しながら事業所ですることを十分に説明し、方針を明示している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成している。AEDを設置し、初期対応の訓練・研修を行っている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の災害避難訓練をおこなっている（日中・夜間各想定して行っている） スプリンクラー・緊急通報装置を設置している。	日中・夜間を想定した火災避難訓練を年2回以上実施している。また、スプリンクラーや火災通報装置等の設備の設置が完了している。地震や津波等の自然災害時の避難方法について行政と相談しながら取り組んでいる。	
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令口調や馴れ馴れしすぎる言葉使いにならないよう気をつけながら対応している。また、更衣・排泄等は特に声掛けに配慮するよう内部研修を通じ周知している。	身体拘束廃止委員会の研修会実施で、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように職員間に周知している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を最大限尊重している。自己決定できない場合は、選択肢等を設け自己決定できるよう配慮している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なスケジュールはあるが、その日の個々の気分や体調を優先し流動的に支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の見守りを行い、乳液・化粧水等の支援を行っている。また、馴染みの美容室・床屋へ行けるよう支援している。訪問理美容も活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	正月や彼岸等、季節に合わせた食事や、鍋・焼肉・握り寿司等の行事食の提供をしている。個々の能力に応じ、職員と一緒に準備や後かたづけを行っている。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、芋団子やかぼちゃ団子、とうもろこしの皮むきや山菜の調理など生活リハビリや役割りごとを決めながら職員と一緒におやつ作りをしている。また、鍋料理やジンギスカン、にぎり鮎など食事が楽しみなものになるように工夫しながら支援に努めている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立をたて、栄養バランスに配慮している。嚥下機能の低下がみられる方には、荒きざみ・ミキサー等で対応している。食事量や水分摂取量はチェック表にて職員が把握し対応している。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全ての利用者が、毎食後口腔ケアを行ってはいないが、起床時・就寝前にはそれぞれに合った口腔ケアを行っている。必要に応じ、義歯預かり、スポンジブラシや歯磨きティッシュでの介助も行っている。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し声掛け・誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援している。体調により、夜間のみポータブルトイレを設置することもある。	一人ひとりの力や排泄パターンを排泄チェック表で把握し、声かけ・誘導などでトイレで排泄できるように支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促し、乳製品の摂取、軽体操・散歩等の運動を取り入れながら、便秘予防に取り組んでいる。個々の状況に応じ、服薬コントロールも行う事があるが、習慣化しないよ配慮している。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調・希望に合わせて支援している。併設事業所の浴室にリフトを設置し、身体機能が低下している方や、立位のできない方でも、安心して湯船に入れるよう配慮している。	入浴に際しての職員の身体への負担軽減や利用者の身体機能の低下に対応ができるように、併設している障がい者施設の利用者と併用して利用できるリフトを昨年設置し、浴槽に安心して入れるようにしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝時間に決まりはなく、個々の生活習慣に配慮しながら、休息・睡眠できるよう支援している。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬ファイルにて、個々の服薬状況等を把握している。受診等で変更になった時には、受診記録にて情報共有している。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑での野菜作りや熱帯魚の飼育を行ったり、家事等の役割分担、パズル・カラオケ・百人一首他色々なレクリエーション、収穫した野菜でのおやつ作り等、個々の能力に合わせて幅広く支援をおこなっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏場は、毎月外出レクを企画し実践している。その他、ドライブや散歩、近隣の公園へ出かけたり、野菜の収穫等も行っている。また、家族の協力のもと、一時帰宅もしていただけるよう支援している。	お祭りや敬老会参加、ドライブや散歩、畑での野菜の収穫など一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	今後は、家族等との協力体制の構築や職員の配置の工夫で、普段では出かけられないような場所へも出かけられるように検討しているので、その実践に期待します。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の金銭管理能力に応じた支援を行っている。お小遣いを所持している利用者には、買い物支援をおこなっている。家族より、金銭管理の依頼を受けたかたには、委任状によりホームで管理し、必要に応じ支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族から、電話がかかってくる利用者が複数おり、その都度取り次ぎ自由にお話していただいている。また、手紙や小包等が届いた際には、お礼の電話をかけている。施設内に、公衆電話を設置しており、家族や知り合いに電話を掛ける利用者もいる。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と共に、季節ごとの壁装飾を作成し展示している。また、行事や日常の様子の写真、通信等も掲示している。(子供っぽくならないよう配慮し、家庭的な雰囲気を大切にしよう配慮している)	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮している。また、共用空間には季節ごとの行事参加の写真の掲示や椅子、ソファの配置で本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスにマッサージ機を配置したり、複数個所に椅子やソファを配置し、自由に談話や休息が出来るよう配慮している。隠れ家的な場所も作っており、さまざまな空間に配慮している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お仏壇や家具等、使い慣れたものを持ち込んでいただいている。本人・家族と相談しながら、希望を取り入れその人らしい空間作りをしている。	居室は、使い慣れた家具や仏壇が持ち込まれたり、家族等の写真の掲示などで本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・廊下・浴室・トイレ等、必要個所には手すりを設置し安全に配慮している。各所の案内表示等、邪魔にならない範囲での工夫をしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0176700391		
法人名	社会福祉法人 稚内木馬館		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地	北海道稚内市はまなす2丁目9-25		
自己評価作成日	平成25年8月12日	評価結果市町村受理日	平成25年9月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・穏やかな環境の中で、安心とやすらぎのある生活ができるよう支援します。
 ・一人一人の能力を引き出し、個々の個性を尊重し、その人らしい日常を送っていただけるよう努力しています。
 ・同一敷地内の障害者施設等との連携による一体運営に取り組んでいます。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0176700391-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成25年9月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念とは別に、事業所の理念があり、スタッフ会議の際に理念を唱和し共有することで、実践につながるよう努力している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、お祭りや廃品回収に参加している。また、稚内美容協会の訪問理美容を利用する等、日常的に交流している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会福祉部等の見学の際、認知症の理解を促している。また、法人広報紙を通じて、地域にむけて紹介し認知症の理解への努力をしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進委員の方に、行事等に参加していただき評価をいただいたり、推進会議の際に取り組み状況においての話し合いをし、サービス向上に活かせるよう努力している。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議に出席した際、市担当者とサービスの取り組みへの実情を話しあったりしている。また、日頃から報告・相談をし協力していただいている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に、身体拘束廃止委員会を設置しており、内部研修等を行い理解をふかめている。玄関の施錠を含め、身体拘束をしないケアを積極的に実践している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会の中で、「高齢者虐待防止法」についての研修も行っており、職員のスキルアップを図りながら虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している利用者があり、個々の必要性や理解を深めながら支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約更新時に契約書・重要事項説明書の内容を説明し同意を得ている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所広報紙「ひだまりの和」を通じ、家族等が意見や要望を言いやすい機会を設けている。 面会時に、家族と話し合える機会を作り、疑問や不安があればその都度解決できるよう支援している。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個人面談を行い、職員との風通しをよくするよう努めており、スタッフ会議においても、意見や提案が言いやすいような環境作りをしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議・管理者会議において、職員の努力や実績の報告を受けながら、パート職員から正職員への採用等、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修を行い、人材育成に取り組んでいる。 個人資格取得の為に費用を、職員互助会を通じ一部負担している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的な交流はないが、市町村で開催する研修会や地域ケア会議等への参加で、同業者との意見交換や交流ができる機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係機関・本人・家族等からの情報収集を行いながら、安心の確保が出来るよう、初期の信頼関係構築に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用開始前から、家族の不安や要望を聞き入れ、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際、本人や家族と十分話し合い、「必要」と思われるサービスは、積極的に組み入れている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑の草取り・洗濯物たたみ・掃除機かけ・雑巾がけ・茶碗拭き等、本人が出来る事を職員と一緒に行っていただきながら、共に支え合う関係を築いている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で、家族に状況を報告したり、行事等へ参加していただいたり、家族との外出や一時帰宅を推進しながら、共に利用者を支えていく関係を築いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から利用していた床屋・美容室へ入居後にも通えるよう支援している。友人・知人・親戚等の面会や電話も多く、家族の協力もいただきながら支援している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の介護度、性格、能力等を把握し、相性を考慮しながら、共同作業や共通の趣味を行っていただいたり、外出したりしてお互いに支え合えるような支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了の殆どが、ご逝去によるものだが、問い合わせや相談事にはその都度応じており、必要ならばフォローもやっている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族と職員が相談しながら、意向に添えるよう努めている。困難な場合は、日常の言動等から本人の意向を把握できるよう努力している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人・家族・関係機関等から情報を収集し把握につとめている。入居後も、本人との会話の中から、生活歴や嗜好を聞き馴染みの暮らし方が出来るよう配慮している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り・介護支援経過記録・スタッフ会議等を利用し、現状の把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議にて、モニタリング・再アセスメントを行いながら、計画作成担当と共に家族や本人の意見やアイデアを反映されるような介護計画を作成している。通常半年毎に見直しを行っているが、状況の変化によってはその都度見直すようにしている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に添った支援が出来るよう、個別記録と連動させている。日々、職員間での情報共有が出来るよう申し送り表等も活用し実践や計画見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の精神障害者施設との連携・協力を計り、サービスの多様化、行事の充実等に取り組んでいる。また、面会・外出・外泊等は、本人や家族の意向に添い柔軟なサービスを行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同一法人の他事業所との交流や温室・畑での野菜作り、地域ボランティアとの関わり等、フォーマルとインフォーマルを組み合わせながら支援している		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医は、その後も継続受診している。症状の変化によっては、家族の意向を確認したうえで受診している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の正看護師が勤務しており、介護職員からの情報を基に、健康状態に応じて受診し、結果報告もその都度行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師からの説明がある際は、家族に同行していただく体勢をとっている。また、医療機関との情報交換を行い、退院後も継続的な支援が行えるよう努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族の思いを確認し方向性を話し合い最善の支援が行えるよう努めている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成している。AEDを設置し、初期対応の訓練・研修を行っている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の災害避難訓練をおこなっている（日中・夜間各想定して行っている） スプリンクラー・緊急通報装置を設置している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令口調や馴れ馴れしすぎる言葉使いにならないよう気をつけながら対応している。また、更衣・排泄等は特に声掛けに配慮するよう内部研修を通じ周知している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を最大限尊重している。自己決定できない場合は、選択肢等を設け自己決定できるよう配慮している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なスケジュールはあるが、その日の個々の気分や体調を優先し流動的に支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の見守りを行い、乳液・化粧水等の支援を行っている。また、馴染みの美容室・床屋へ行けるよう支援している。訪問理美容も活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	正月や彼岸等、季節に合わせた食事や、鍋・焼肉・握り寿司等の行事食の提供をしている。個々の能力に応じ、職員と一緒に準備や後かたづけを行っている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立をたて、栄養バランスに配慮している。嚥下機能の低下がみられる方には、荒きざみ・ミキサー等で対応している。食事量や水分摂取量はチェック表にて職員が把握し対応している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全ての利用者が、毎食後口腔ケアを行ってはいないが、起床時・就寝前にはそれぞれに合った口腔ケアを行っている。必要に応じ、義歯預かり、スポンジブラシや歯磨きティッシュでの介助もやっている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し声掛け・誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援している。体調により、夜間のみポータブルトイレを設置することもある。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促し、乳製品の摂取、軽体操・散歩等の運動を取り入れながら、便秘予防に取り組んでいる。個々の状況に応じ、服薬コントロールも行う事があるが、習慣化しないよ配慮している。		
45	17	入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調・希望に合わせて支援している。併設事業所の浴室にリフトを設置し、身体機能が低下している方や、立位のできない方でも、安心して湯船に入れるよう配慮している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝時間に決まりはなく、個々の生活習慣に配慮しながら、休息・睡眠できるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬ファイルにて、個々の服薬状況等を把握している。受診等で変更になった時には、受診記録にて情報共有している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑での野菜作りや熱帯魚の飼育を行ったり、家事等の役割分担、パズル・カラオケ・百人一首他色々なレクリエーション、収穫した野菜でのおやつ作り等、個々の能力に合わせ幅広く支援をおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏場は、毎月外出レクを企画し実践している。その他、ドライブや散歩、近隣の公園へ出かけたり、野菜の収穫等もやっている。また、家族の協力のもと、一時帰宅もしていただけるよう支援している。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の金銭管理能力に応じた支援を行っている。お小遣いを所持している利用者には、買い物支援をおこなっている。家族より、金銭管理の依頼を受けたかたには、委任状によりホームで管理し、必要に応じ支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族から、電話がかかってくる利用者が複数あり、その都度取り次ぎ自由にお話していただいている。また、手紙や小包等が届いた際には、お礼の電話をかけている。施設内に、公衆電話を設置しており、家族や知り合いに電話を掛ける利用者もいる。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と共に、季節ごとの壁装飾を作成し展示している。また、行事や日常の様子の写真、通信等も掲示している。(子供っぽくならないよう配慮し、家庭的な雰囲気を大切にすよう配慮している)		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスにマッサージ機を配置したり、複数個所に椅子やソファを配置し、自由に談話や休息が出来るよう配慮している。隠れ家的な場所も作っており、さまざまな空間に配慮している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お仏壇や家具等、使い慣れたものを持ち込んでいただいている。本人・家族と相談しながら、希望を取り入れその人らしい空間作りをしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること、や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・廊下・浴室・トイレ等、必要個所には手すりを設置し安全に配慮している。各所の案内表示等、邪魔にならない範囲での工夫をしている。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	38	人格を尊重し、誇りを損ねない対応が不十分な時がある	日々、その人らしい暮らしが出来るよう支援する	ことばと裏腹な思いを、どのように相手に寄り添い受け止めるか、また、偏見や思い込みで決めつけないようにする	12カ月
2	49	一人ひとりのその日の希望に添った外出が出来ない事がある	本人の希望を把握し、戸外にでかけられるよう支援する	家族とも協力体制をとり、普段出かけられないようなところへも行けるよう努力する	12カ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。